

特集

障がいへの理解を深める  
芸術の力で明るく前向きに

△障害者週間…12月3日～9日▽

12月3日から9日までは、「障害者週間」です。障がいのある人もない人も、誰もが生き生きと暮らせるまににするためには、一人一人が障がいについて正しく理解し、共に支え合うことが大切です。今回の特集では、芸術活動を通して日々さまざまなことに挑戦されているお二人の姿を紹介します。

やまもと みちこ  
山本 道子さん (68歳)

生まれつき視力が弱く、幼い頃からかきに見えた“色”の記憶を頼りに、日々折り紙制作に取り組む山本さん。明るい笑顔で作品への想いを語ってくれました。



▶折り紙を始めたきっかけは？



もともと手芸が好きで、昔から裁縫や編み物などを趣味でやっていました。10年ほど前に、折り紙の先生が作った立体的なバラの作品を知り、「私も作ってみたい!」と思いまして。友人から作り方を教えてもらいました。とても難しかったのですが、できたときは嬉しかったですね。

▶現在、取り組んでいることはありますか？

オンラインで活動する折り紙サークルがありまして、全国から50人くらいの人が参加しています。視覚障がい者の人ばかりなので、口頭での説明が難しいところは、手順ごとに折り紙を折って郵便で送り合うなど、工夫して取り組んでいます。折り紙だけでなく、地元の美味しいものを送って下さる方もいて、私も大垣の美味しいものを送っていますよ。あとは、お互い住んでいる地域の気候の話とか、折り紙以外のこともみんなとおしゃべりできて楽しいです。

▶折り紙制作で大変なことはありますか？

色を決めることです。これは、折り紙だけでなく、服を選ぶときも大変ですね。子どもの頃は色がかすかに見えたので、

お二人のインタビューの様子や作品制作の様子は、YouTubeの大垣市公式チャンネルでご覧いただけます。



YouTube  
大垣市公式  
チャンネル

その時の記憶を頼りに色を決めています。明るい色のイメージがある菜の花の黄色が好きです。色ごとに折り紙を袋に入れ、袋に色の名前を点字で書いているのですが、イメージと違う色で作っているときもあるみたいです。そのときは周りの人に教えてもらっています。ただ、赤色でも朱色や紅色などさまざまな色があり、人によってイメージが異なるので、やはり色選びは一番困りますね。

▶日常生活で大変だと感じたことはありますか？

特に、子育てがとても大変でした。子どもが病気になるたびに何もしてあげられないことが辛くて。熱が出ても顔色もわからないし、冷やしてあげることもできなくて。それでも、子どもと助け合いながら、楽しく過ごしてきましたよ。

▶みなさんにメッセージをお願いします。

私は生まれつき障がいがありますが、それほど「うじうじ」はしていません。誰でも苦勞することはありますし、もうダメだと思ったら前には進めません。私自身、落ち込んだ時はすぐに立ち直るようにしています。困ったときは誰かに相談するなど、他の人の力を借りながら前に進んでほしいと思います。



山本さんが手掛けたブローチやリースなどの作品

▶絵を描くときに大変なことはありますか？

指2本で筆を持って描くので手が震えてしまつて。細かい絵だと下書きするだけでもとても時間がかかります。また、色を作るのが難しいです。自分のイメージした色味になかなかできず、いつも先生のアドバイスを受けながら描いています。

▶現在、取り組んでいることはありますか？

身障協会のデイサービスに通っているのですが、折り紙でクジャクを作ろうと思っています。親・子・孫の3匹で、折り紙を900枚くらい使うため、大変な作業になると思います。手のリハビリになりますし、やりたいと思ったことはやりたいときにやった方が良いでしょう。

▶みなさんにメッセージをお願いします。

若いうちから、いろんなことに挑戦してほしいと思います。障がいのある人もない人も、自分でやろうという気がなければ何もできません。実際にやってみてできなければ、違うことを始めれば良いのではないのでしょうか。後ろを向いていては後悔するだけなので、前を向いて突き進んでほしいと思います。



大橋さんが描いた「七福神」(左)と「風神雷神」(右)

おおはし としお  
大橋 俊雄さん (80歳)

交通事故によって上肢と下肢が不自由になり、一生懸命リハビリに取り組んだ結果によって文字が書けるようになった大橋さん。現在では、絵画など芸術作品の制作活動に励んでいます。



▶絵画制作を始めたきっかけは？

ある人との出会いがきっかけでした。事故に遭ったのは55歳のときで、その後5年間は家でふさぎ込んでいました。ある日、庭の剪定を頼んだのですが、家にみえた方が身障協会の方でして、引きこもっている私を見て言いました。「このままではいけない」と。その言葉を聞いて私は、障がい者向けの無料の絵画教室に足を運んでみました。そのときの先生が、今の絵画教室の先生です。あのとき剪定をお願いしていなかったら、私は今も寝たきりだったと思います。

▶どんな作品を作っていますか？

以前は絵手紙や切り絵を作っていました。5年ほど前からは掛け軸を作っています。季節ごとに床の間に飾れるように、お雛様を描いたり兜を描いたり。最近は、描き終えた「七福神」をもう一つ描いて、兄弟にプレゼントしようと思っています。また、10月ごろから1か月半かけて、大垣まつりの14両の軸を描きました。これは、12月の作品展(5面参照)に出そうと思っています。

